

仕事とは理想の人生を 実現させるためのツール。 なりたい自分を 自問自答してください。

心臓外科医
須磨久善

医師になつてこれまで38年間、心臓外科手術の第一線で戦い続けてきました。つらく苦しいこともありましたが、それでもくじけなかったのは、医師になろうと最初に思つた原点がしかりしていたからです。中学生のときに自分は将来どうなりたいたのかと考えたとき、幸せになりたいと思いました。出会った人に好かれて感謝される人生なら幸せだなと思ひ、そのためにはどういう仕事がいいかなと考えたところ、医師ならたくさん患者さんを助けることによつて感謝されるからいいなど、それで医師になつたわけです。つまり仕事は自分の理想の人生を実現させるためのひとつのツールにすぎない。将来のなりたい自分を自問自答しつつイメージを固め、そこから逆算すれば高校時代にどうするべきかは自ずとわかつてくると思ひますよ。

ただ、これから人生を歩いていく過程で、その時々で自分の希望通りにならなくて落ち込むこともあるかもしれません。でも、後から振り返るとあのとき思ひ込んでいなかったから、ここの幸せな自分があるということも多々あります。実際僕の人生もその繰り返しになりました。それがわかってくると人生がすこく楽しくなります。思い通りにならないということは、自分が想像できる範囲をはるかに超えたいことが起こる可能性があるわけですからね。だからその時々、失敗や挫折でいちいち落ち込まなくてもいいんです。最終的に目指すゴールにたどり着ければいいわけですからね。

Hisayoshi Suma
須磨久善

1950年、兵庫県生まれ。心臓外科医。大阪医科大学卒。三井記念病院心臓血管外科部長。ロンドン・カトリック大学心臓外科客員教授。泰山ハートセンター院長。(財)心臓血管研究所「ハーバライザー」などを創設。現在須磨ハートクリニック院長を務める。これまでに手がけた心臓手術は5000件以上。1986年には世界初となる胃大動脈動脈手術を開発。1996年には日本初のバチスタ手術に挑み、その後改良を重ね、成功率と患者の生存率を飛躍的に向上させた。テレビドラマ「医龍」や映画「チーム・バチスタの栄光」などの医療監修も担当。2012年には自伝的小説「タッチュア・ハート」を主筆した。